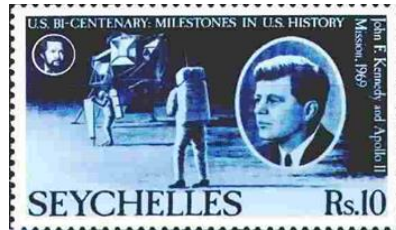


5-1 アポロ計画開始

◎ケネディ大統領が遺したアポロ計画



(セイシェル、1976年発行)

ケネディ大統領は人類の月着陸を指示しましたが不運にも1963年に暗殺されてしまいました。しかし、彼の宇宙政策はアポロ計画として1969年に結実します。

◎アポロ1号の搭乗員が火災事故で死亡



(ルーマニア、1972年発行)

1967年1月27日、リハーサルでアポロ1号のカプセルに搭乗していた宇宙飛行士3名が、船内の火災のため全員死亡しました。アポロ2号とアポロ3号は前年にサターンIBで打ち上げられ、計画された試験を行っています。

アポロ2号とアポロ3号はサターンIBロケットで打ち上げられ、計画された試験を行いました。

◎アポロ4号でサターンVロケットの初打ち上げ

11月9日 打ち上げ(国際標識番号: 1967-113A)



(ルーマニア、1972年発行)



(セイシェル、1969年発行)

アポロ4号は1967年11月9日に打ち上げられました。サターンVロケットは100t以上の物資を積載でき、米国史上最大の性能を持つロケットです。

NASAは1968年1月22日にアポロ5号、4月4日にアポロ6号を無人で打ち上げました。

5-2 アポロ8号で初の有人月周回飛行に成功

◎アポロ7号

10月11日打上げ(国際標識番号:1968-089A)



(ルーマニア、1972年発行)

◎アポロ8号

12月11日打上げ(国際標識番号:1968-118A)



(中央アフリカ、1969年発行)



(米国、1969年発行)

NASAは1968年10月11日にアポロ7号で有人飛行を再開しました。
3人の宇宙飛行士が月への飛行より長時間の地球周回飛行を行いました。
同年12月21日、アポロ8号は世界で初めて有人月周回飛行に成功し、印象的な地球の写真を撮影しました。月の周囲を周回しているのはアポロ司令船です。

◎アポロ9号

3月3日打上げ(国際標識番号:1969-018A)



(ルーマニア、1972年発行)

アポロ9号は地球周回軌道で司令船と着陸機のドッキングなどの試験を行いました。

◎アポロ10号

5月18日打上げ(国際標識番号:1969-043A)



(ルーマニア、1972年発行)

アポロ10号は月まで10kmというところまで接近しました。

5-3 アポロ司令船と着陸機・上昇機の開発

◎司令船の開発

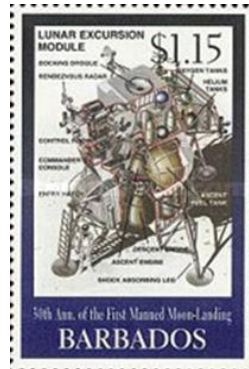
◎着陸機(イーグル)の開発



(アスンシオン)



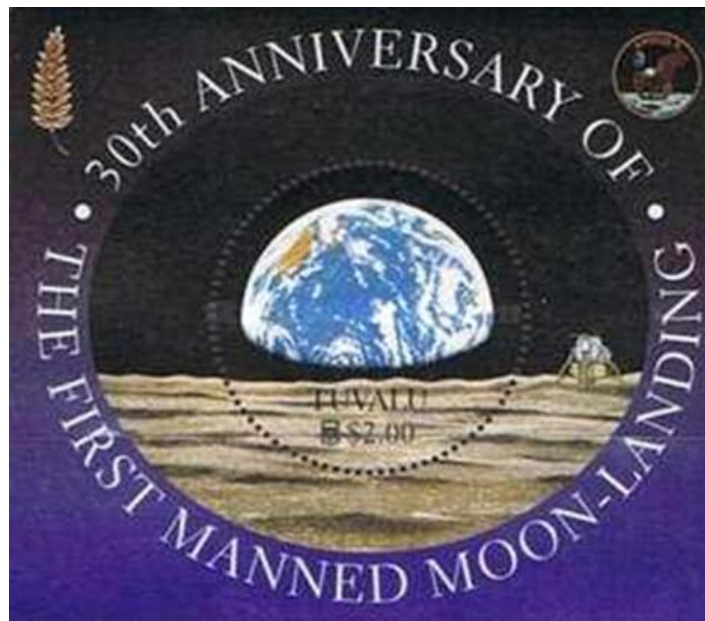
(バハマ)



(バルバドス)



(バハマ)



(ツバル)

◎上昇機の開発



(バハマ)



(ツバル)



(アスンシオン)

発行年はすべて1999年

5-4 アポロ11号打上げ (1969年7月16日)

国際標識番号: 1969-059A



(フィジー)
宇宙飛行士搭乗



(ケイマン諸島)
カウントダウン



(ソロモン)
リフトオフ



(ツバル)
上昇開始



(バルバドス)
第1段切り離し



(フィジー)
第2段エンジン点火



(ケイマン諸島)
第3段エンジン点火



(バージン諸島)
第3段切り離し



(ジャマイカ)
司令船をいったん分離



(キリバス)
司令船と着陸機の結合



(ナウル)
第4段を切り離して月へ
発行年はすべて1999年



(サモア)
着陸機切り離し

5-5 人類月に立つーアポロ11号宇宙飛行士の活動



(ツバル)
着陸機が月面に着陸



(ケイマン諸島)
宇宙飛行士が下船



(フィジー)
月面を歩く



(ソロモン)
星条旗を月面に立てる



(サモア)
太陽風の実験



(セントキッツ)
科学機器を設置



(ジャマイカ)
月の土壌を採集

発行年はすべて1999年

5-6 アポロ11号の地球への帰還



(バハマ)
上昇機が司令船へ向かう



(バルバドス)
司令船とドッキング



(バージン諸島)
宇宙飛行士移乗



(ケイマン諸島)
上昇機を月に戻す



(フィジー)
地球へ向かう



(ジャマイカ)
地球周回軌道に入る



(キリバス)
帰還カプセル切り離し



(ナウル)
大気圏突入



(セントキッツ)
大気との摩擦で高温に



(サモア)
パラシュート開傘



(ソロモン)
着水



(ツバル)
宇宙飛行士がボートに移乗

発行年はすべて1999年

5-7 アポロ12号 (1969年11月14日打上げ)

国際標識番号: 1969-099A



(ルーマニア、1972年発行)



(パラグアイ、1973年発行)



(ハンガリー、1970年発行)

5-8 アポロ13号 (1970年4月11日打上げ)

国際標識番号: 1970-029A

月に着陸できず月フライバイで地球に帰還しました。



(マリ、1970年発行)



(パラグアイ、1973年発行)



(セントキッツ、1989年発行)



(ハンガリー、1970年発行)

5-9 アポロ14号 (1971年1月31日打上げ)

国際標識番号: 1971-008A

前年のアポロ13号は月面着陸を果たせなかったものの、NASAはアポロ14号で再び月での科学採集活動を実施しました。



(マリ、1973年発行)



(パラグアイ、1973年発行)



(トーゴ、1971年発行)



(ハンガリー、1971年発行)

5-10 アポロ15号 (1971年7月26日打上げ)

国際標識番号: 1971-063A

アポロ15号では、初めて月面ローバを使った調査を行いました。



(米国、1971年発行)



(マリ、1973年発行)



(パラグアイ、1973年発行)



(ハンガリー、1972年発行)

5-11 アポロ16号 (1972年4月16日打上げ)

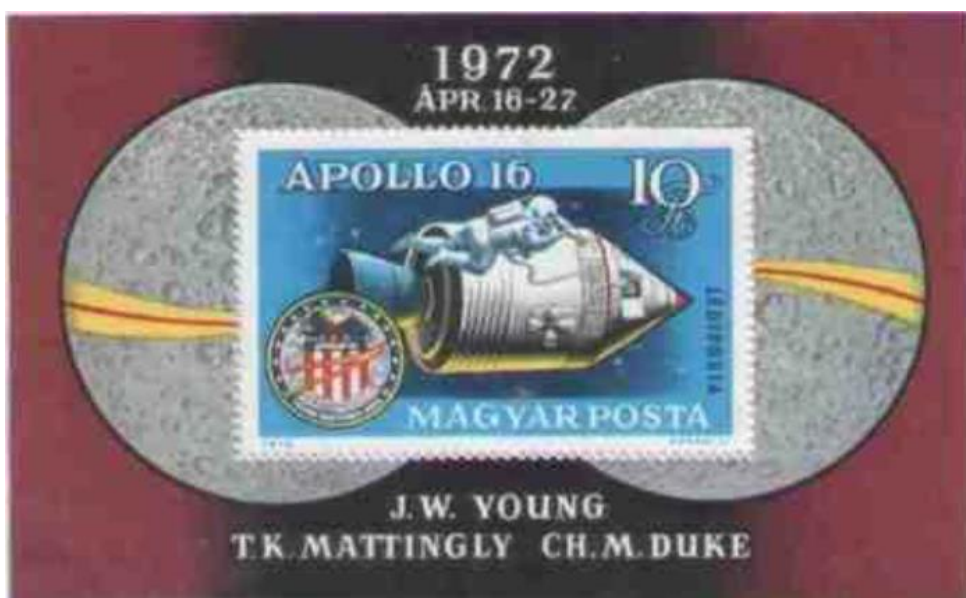
国際標識番号: 1972-031A



(パラグアイ、1973年発行)



(中央アフリカ、1972年発行)



(ハンガリー、1972年発行)

5-12 アポロ17号 (1972年12月7日打上げ)

国際標識番号: 1972-096A

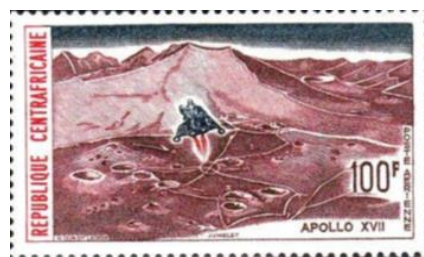
アポロ計画はこれで終了しました。



(パラグアイ、1973年発行)



(ルーマニア、1972年発行)



(中央アフリカ、1972年発行)



(マリ、1973年発行)



(ハンガリー、1973年発行)

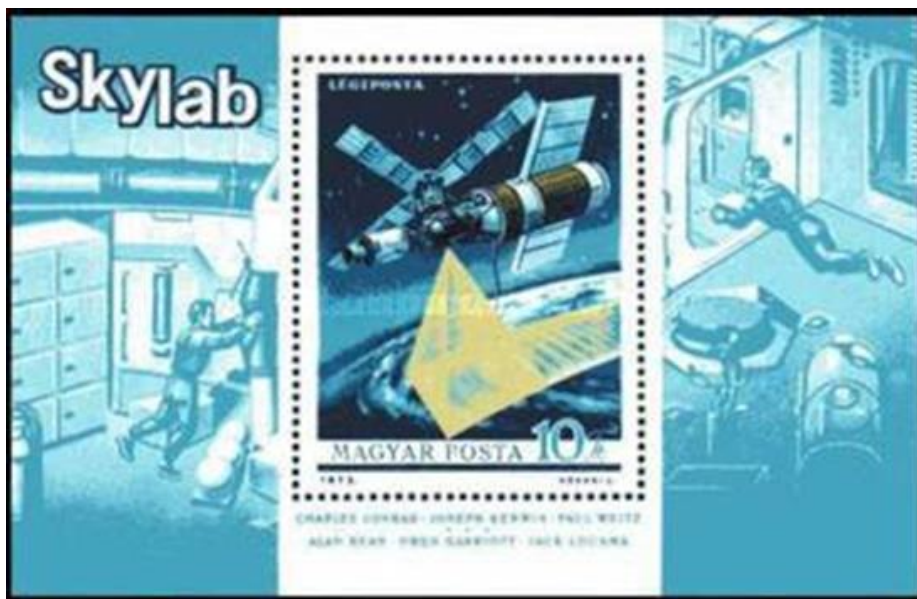
5-13 スカイラブ計画

スカイラブとは宇宙の研究室のことです。アポロ計画からスペースシャトル計画に移行する途中の、いわば小型宇宙ステーションでした。

1973年に打ち上げられたスカイラブ1号は無人のモジュールで、その後2号から4号までアポロ司令船と同型の有人モジュールが3回打ち上げられ、1号とドッキングしました。



(米国、1974年)



(ハンガリー、1973年発行)

©1973年に3回飛行したスカイラブ

スカイラブ2号	国際標識番号: 1973-032A
スカイラブ3号	国際標識番号: 1973-050A
スカイラブ4号	国際標識番号: 1973-090A



(マリ、1974年発行)



(アスンシオン、1975年発行)

5-14 アポロソユーズ計画

1975年7月15日、米国のアポロ宇宙船とソ連のソユーズ宇宙船が同日に打ち上げられ、ドッキングして両国の宇宙飛行士が共同作業を行いました。

アポロ18号を打ち上げたサターンVロケット



ソユーズ19号を打ち上げたソユーズロケット



(カメルーン、1977年発行)

アポロ18号

国際標識番号:1974-104A

ソユーズ19号

国際標識番号:1974-104A



(ブータン、1975年発行)



(米国、1975年発行)

5-15 アポロ11号10周年記念 (1979年)

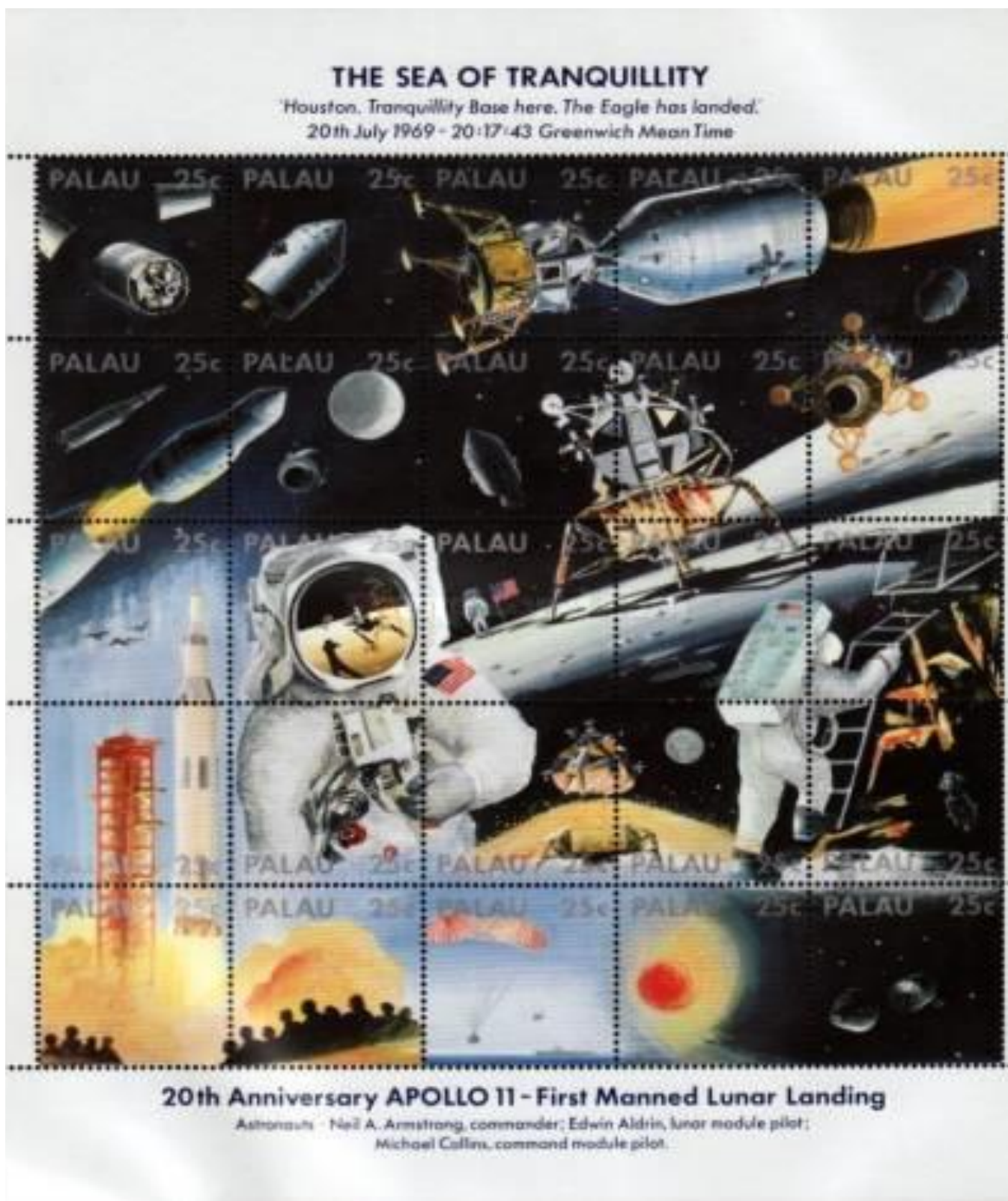


(ガンビア、1979年発行)



(サントメ・プリンシペ、1980年発行)

5-16 アポロ11号20周年記念 (1989年)



(パラオ、1989年発行)